

日本特別活動学会 重点課題研究プロジェクト申請書

提出日 西暦2022年9月27日

1. 研究代表者

氏名	京免徹雄	所属	筑波大学 人間系
----	------	----	----------

2. 研究課題名

グローバル・スタンダードとしての日本型教育モデルの開発 —Tokkatsuの海外展開の分析
--

3. 研究組織 ※欄が不足する場合は増やしてください。本学会員にはチェック☑をつける

氏名	研究分担者、研究協力者の別	会員	所属
山田真紀	研究分担者	<input checked="" type="checkbox"/>	椛山女学園大学
杉田 洋	研究分担者	<input checked="" type="checkbox"/>	國學院大学
瀬戸口暢浩	研究協力者	<input type="checkbox"/>	株式会社パデコ
Mohamed Abdelmeguid	研究協力者	<input type="checkbox"/>	JICAプロジェクト
Safaa Nour	研究協力者	<input type="checkbox"/>	カイロ大学

4. 研究目的 ※何をどこまで明らかにしようとするのか具体的に記入してください。

本研究の目的は、日本型教育の海外展開事業(Edu-Portニッポン)の一環として、エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動(Tokkatsu)の現地化のメカニズムを、研究者・実践者との「草の根交流」を通じて明らかにすることで、国際的通用性と倫理性を備えたグローバル・スタンダードとしての日本型教育モデルを開発することである。

グローバルな教育トランスファーの時代を迎える中、日本型教育は認知的な学力と非認知的な社会性や協調性を一体的に育てることに強みをもつ。このうち非認知の部分を中心に担ってきたのが特別活動であり、世界的に大きく注目されている*。しかし、社会的・文化的背景の異なる他国においても、その機能が発揮されるのか、その際にシステムの維持と変容がどのように生じているのか十分に考察されていない。また特別活動に関しては、集団統制による個性の抑圧に陥りやすいというリスクや、教員養成・研修の不足から熱意や指導力が個人の経験に左右されるといった課題も指摘されている。発信国で確認された負の側面に受容国がどのように向き合っているかという点も、ほとんど研究がなされていない。

本研究は、ネガティブな側面も含めた特別活動の機能に着目し、維持と変容のメカニズムについてエジプト現地の視点を交えて分析しようとしており、この点が挑戦的である。また、その成果をもとに、国際的に開かれた「日本型」の在り方を追究する点に、独創性がある。

5. 対応する重点課題 ※①～④の数字を記入する

③	①学校での実践を活性化するための研究 ②特別活動の担い手を育てるための研究 ③特別活動の意味と機能を明らかにするアカデミックな研究 ④次期学習指導要領の「特別活動」の構造と内容を提言する研究
---	--

6. 研究期間及び計画 ※具体的に箇条書きにしてください。

研究期間: 2023年 4月～ 2025年 3月(2 年間)

・2023年度(1年目): 日本とエジプトにおけるTokkatsuの機能の比較検討
 現在エジプトでは、エジプト日本学校(新設の公立校)48校、パイオニア校(既存の公立校)12校で、掃除、日直、学級活動などが実施されている。教科担任制・教科中心のカリキュラムで、日本のような学校・学級生活がないため、様々なカスタマイズが行われている。授業の参与観察や教師・児童へのインタビューを通して、現地化のプロセスと要因を探る。

・2024年度(2年目): Tokkatsu研修・認証制度(TTCS)の成果と課題の解明
 2020年度から、小学校の実践を指導し教師を訓練するTokkatsuオフィサー(TO)を研修・認証する事業が開始された。日本にない仕組みであり、現地化の最も進んだ形態といえる。事業の4つの要素である、「期待される能力一覧」「研修カリキュラム」「研修実施者・実施機関の条件」「TOの評価・認証方法」がどのように相互作用しているか調査する。日本型から国際型に進化したTokkatsuを構築し、世界授業研究学会(WALS)で発表する。

7. 研究成果を学会員や社会へ還元する方法
計画されているものに☑してください。

学会・雑誌名・時期など		
<input checked="" type="checkbox"/>	年次大会や研究会等での発表	2024年度:日本特別活動学会、世界授業研究学会
<input checked="" type="checkbox"/>	学会誌への投稿	2024年度:日本特別活動学会紀要
<input checked="" type="checkbox"/>	オンライン研究会などの開催	2023年度・2024年度:特活カフェなどで中間・成果報告
<input type="checkbox"/>	研究成果報告冊子／書籍の発	
<input type="checkbox"/>	その他	

8. 研究費助成の希望 選択→ 有 有を選択した場合、別タブの「予算申請書」を作成してください。

9. 科研費申請の有無

選択→ 今年度科研費申請予定

10. 研究誓約事項

チェック

- ・日本特別活動学会の研究倫理規定を熟知している。
- ・研究対象のプライバシー保護など人権に配慮して研究を進める。
- ・研究費を適正に使用する。
- ・成果発表において盗用・剽窃などの研究倫理違反をしない。
- ・年度末に研究成果報告書を提出する。
- ・研究倫理に関する上記のルールを研究分担者および協力者にも順守させる。
- ・本申請書を研究代表者のメールアドレスから添付ファイルで送信したことをもって、上記の誓約書に同意したこととする。